

【地域商社の公募】

【公募概要】

平成 30 年度小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業調査研究事業申請書で「地域商社設立を目指したコミュニティビジネス及び地域活性化調査事業」を実施し、地域商社の組織形態、機能・役割、事業計画・収支シミュレーションを行い、地域商社の重要性を認識することができ、早期の設立が急務であるという結論に達しました。そのため、地域商社設立及び運営に興味のある方、趣旨をご理解頂いた方で、本事業に概ね専念頂ける方を、当会会員の中から広く公募し選定することとなりました。つきましては、地域商社設立に関わりたい方は当会へ平成 31 年 4 月 26 日（金）までにご連絡ください。選定方法については、地域商社選定委員会にて選定致します。

資格条件：地域商社設立・運営に興味のある方
地域商社事業に概ね専念できる方
地域事業者の活性化のサポートをしたい方
平成 31 年度全国展開プロジェクト委員会に参加できる方

【地域商社とは】

地域商社は環境・産物・人的地域資源を俯瞰で見ながら、消費者ニーズ・バイヤーと地域事業者を繋ぐかけ橋的役となり、商品開発、催事企画、地域外への販路開拓へ繋げたり、PR活動などを実施し、地域内の交流人口の増加による活力向上を目指す。

当面、地域事業者に、消費者ニーズ・バイヤーに応えた「セントルマルシェ」ブランド商品を開発支援し、品揃えを充実させ、ブランドの構築及び PR 及び各種販路開拓を行う。

セントルマルシェブランド商品の PR の場として、また、地域内交流人口の増加のため、セントルマルシェの企画・運営を行う。

平成 30 年度の全国展開支援事業調査研究事業において、当地域における地域商社の役割・機能や収支シミュレーション等の事業の方向性についての検討を行ってきたことを踏まえ、より精緻なビジネスモデルの確立を図り、持続可能な地域商社の早期設立に向けて取り組むことを通じて、県央地域のブランドとしての、Centre Marche（セントルマルシェ）のさらなる認知度向上を図ることとを目的とする。

地域商社を平成 31 年度中に設立し、将来的に事業体に多様な機能を付加することで地域の活力向上を目指す。

【地域商社設立経緯】

（地域経済の現状）

▼地域内の卸・小売業、サービス業、飲食業は高齢化、人口減少により廃業が相次いでいる

▼早急に確実に効果の出る策が急務である

東広島市全体としては、広島県内でも数少ない人口増加の自治体であり、特に市内中心部を主体に、公共インフラも整備され順調な発展をみせる一方で、特に当商工会の 3 町地域は、これといった地場産業もなく、企業立地も限られていることから、若年層を中心に、地域外に就業先を求める傾向が強まっている。

3 町の購買動向は、中心部である西条地区等の大型ショッピングセンターに主として流れ、当地域内の商店は、小規模零細規模が多く高齢化もあり、廃業が相次いでおり、商業、サービス業衰退の危機的状況にあり、これの復興を当商工会の事業施策の最重点課題として取り上げる必要がある。

市全体では人口増加があることで、県央地域への誘因へのポテンシャルは高い。

(問題点)

▼一体的な取り組みができていない

▼資源活用ができていない

▼外部への商品販売窓口がない⇒平成30年度全国展開支援事業調査研究事業実施

こうした中、県央地域の活性化に向けて、当会として①交流人口拡大、②ブランド商品開発、③観光メニュー開発の取組みを平成23年度より、ふるさと雇用特別交付金事業や全国展開事業、経営発達支援推進事業で食と農産物の特産品開発、地域資源を生かした特産品開発と体験事業所を中心とした滞在型観光に取り組み、交流人口増加、ブランド商品の開発に成果が出始めている。

その中で、バイヤーから問い合わせがあった場合は、各事業者へ個別に問い合わせをお願いせざるをえない。また、セントルマルシェで出展を依頼された際にはバイヤーはあまりに煩雑すぎて、チャンスが流れることは必至である。そこで各事業者の窓口となり商談を進める組織が必要になる。1事業所が商品販売の窓口では、点でしかなく面として県央地域を取りまとめる地域商社のような組織の設立により期待されている。どのような事業体の設立になるかが今後の課題となっているため、平成30年度全国展開支援事業調査研究事業で「地域商社設立を目指したコミュニティビジネス及び地域活性化調査事業」を実施した。

(解決策)

▼県央プロバンス計画・セントルマルシェ商品のブランド構築

▼新たな地域コンセプトイベント「Centre Marche」実施

▼窓口の集約化による地域外との効果的な調整⇒地域商社の設立が必要

顧客はネット検索した場合は国内の各県の「県央」が出てくる。「広島県央」ならではの強いコンセプトが必要になってきた。

県央地域は赤瓦の家、連なる低い山々。大自然に囲まれたのどかな風景。古くから作られている味噌や麺などが普通に入手できるという暮らしぶりが、南仏プロバンスに似ていることから「県央プロバンス」をコンセプトに掲げた。「セントルマルシェ」ブランドとして開発した商品の品揃えの充実。

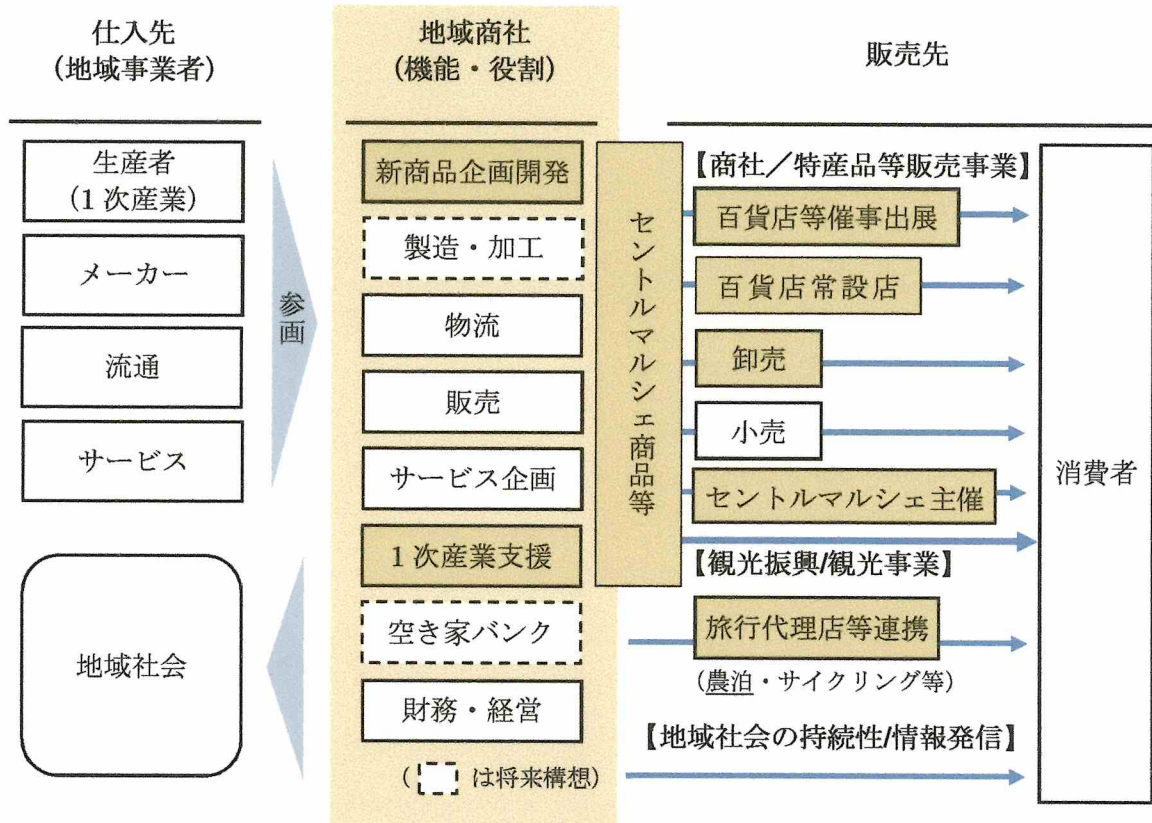
平成30年度小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業調査研究事業申請書で「地域商社設立を目指したコミュニティビジネス及び地域活性化調査事業」を実施し、地域商社の組織形態、機能・役割、事業計画・収支シュミレーションを行い、地域商社の重要性を認識することができ、早期の設立が急務であるという結論に達した。

(地域商社の将来ビジョン)

地域商社を平成31年度中に設立し、将来的に事業体に多様な機能を付加することで地域の活力向上を目指す。例えば、機能として、フレンチレストラン、オーベルジュ(※1)、ショコラティエ(※2)、加工施設、陶芸・木工など体験工房、さらに経営学校を併設した食と体験の集積地などを今後検討していくことで、移住者の増加等の効果が期待できる。

県央地域内や近隣の道の駅・地域物産販売拠点や各体験事業所と連携し、その窓口としての機能を事業体(地域商社)に設けて、情報共有とイベントの共同開催などの実施を目指していく。

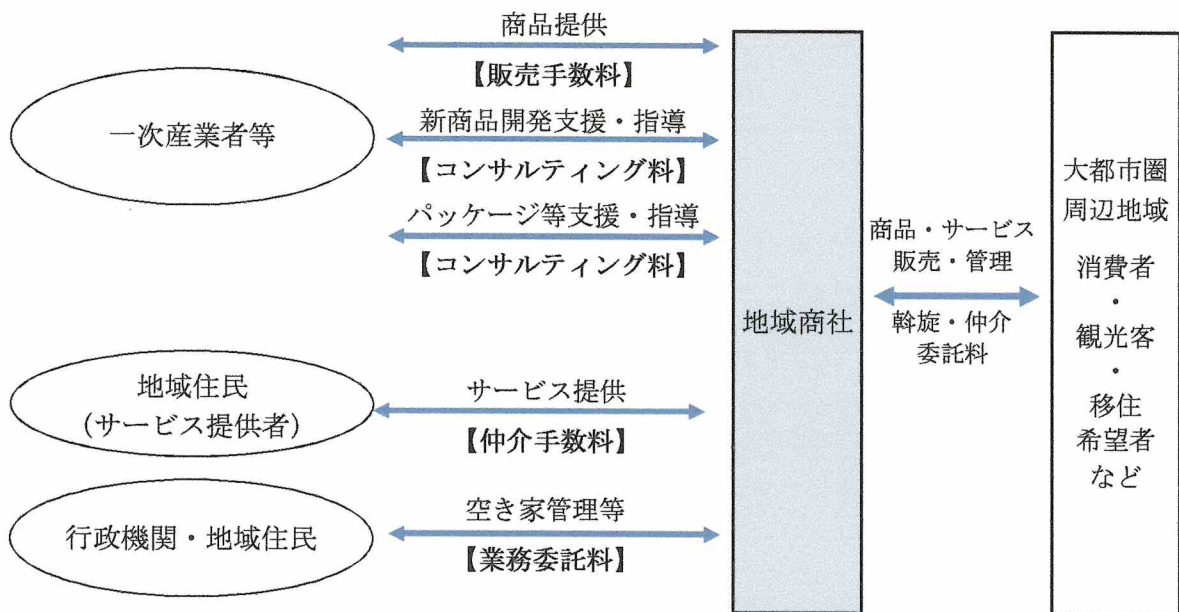
【地域商社の機能・役割イメージ】



※ : 地域商社設立時に実施する機能・取り組み

(想定ビジネスモデル)

調査研究事業において、当地域における地域商社の役割・機能や収支シミュレーション等の事業の方向性についての検討を行ってきた。この結果、特産品等販売事業における「卸売」、「セントルマルシェでの販売」、観光事業における「農泊」の実施や地域の1次産業支援を行うことを将来構想として掲げ、検討を進めていくこととなった。



※空き家管理等における行政機関・地域住民からの業務委託については、将来構想として検討